差別・偏見のない社会を！

性同一性障害 学生が講演会

公明市議、取り組みを紹介

東京学芸大学
東京工科大学

学生が性同一性障害への理解を深め、差別や偏見のない人権先進社会をつくろう――。東京学芸大学の学生でつくる「人間教育研究会」（大宮将之代表＝教育学部4年生）と東京工科大学の学生有志は9月28日、東京都小金井市にある東京学芸大学で、性同一性障害をテーマに講演会を開催した。

講演する山本代表（右端）と、講師として参加した鈴木議員（左手前）、松村代表代行（右隣）

「性同一性障害をかかえる人々が、普通にくらせる社会をめざす会」の山本蘭代表と松村比奈子代表代行（拓殖大学非常勤講師）、小金井市議会公明党の鈴木洋子議員の3人が講演した。

性同一性障害とは、心の組みを変えながら経章状のこと。鈴木議員は、党女性委員会の男女共同参画・人権擁護プロジェクトチームの副座長を務め、性同一性障害者の戸籍上の性別変更を可能にする「性同一性障害者の性別取り扱い特例法」の成立を推進してきた。

講演はまず「研究会」の大宮代表と東京工科大学の土方聖二さん（工学部2年生）が、性同一性障害の概要について研究発表。次に鈴木議員が、今年7月に成立した特例法について、公明党の取の問題を市議会で取り上げたことで、市が今年4月から、印鑑証明の申請書などの性別記載欄などを削除したことなども報告した。

当事者である学生が体験を語り、「めざす会」の松村代表代行が、性同一性障害者の戸籍の性別訂正について「判例および法理論、諸外国の対応などを鑑みても強く望まれる」と強調した。最後に山本代表が登壇し「子どもがいない場合に限る」などと、特例法で性の変更をする際の適用要件が抱える問題点を指摘、今後の見直しなどを訴えた。

講演後、東京学芸大学の女子学生（教育学部2年生）は「大変勉強になった。将来、教育現場でこの問題を扱っていきたい」と感想を述べていた。